

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

勝坂遺跡縄文まつりを開催！

11月3日（祝）に史跡勝坂遺跡公園にて、恒例の勝坂遺跡縄文まつりが開催されました。当日は、文化財調査・普及員有志で今年結成された勝坂遺跡活用実行委員会のほか、地元勝坂自治会連合会、教職員互助会土器の会、古代技術を楽しむ会など多くの参加がありました。

今回は縄文まつりに参加した勝坂遺跡活用実行委員会メンバーが当日の様子を紹介いたします。

今年の縄文まつりは晴天に恵まれて、照葉樹林に囲まれた遺跡公園の原っぱでは、大勢の方の参加があり、様々な縄文文化を感じていただき、大盛況のうちに終わることができました。ちょうど近隣の「ざる菊花見会」も見頃となり、両方訪れて楽しむことができたためか、昨年より参加者が多かったように思います。

地域や各団体の協力をいただき模擬店や各種体験コーナーが7ヶ所設けられ、普及員 26



土器野焼き

名もそれらに携わり活動しました。初めてクルミ割をし、試食をした方は「こんなに美味しいの」とか、弓を射って「勝坂に生まれて良かった！」と喜び叫ぶ子どもがいました。参加者にじかにふ

目次

- ① 勝坂遺跡縄文まつりを開催！
- ② 山梨県都留市 勝山城・谷村城・八朔祭
・5期生登録者講習会同行記—村富神社編—
- ③ 80年ぶり！「上溝シャンソン」復活
・集落の形成を助けた大沼の講について
- ④ 文化財めぐりマップ紹介～「点の記」北端点と
百米比較室～

れあい、私たちも喜びを共有することができました。

ざる菊花見会場の駐車場を縄文まつりの参加者に開放していただくなど、地域の方のご理解があつて開催できましたが、駐車場の確保は今後の課題ともなりました。

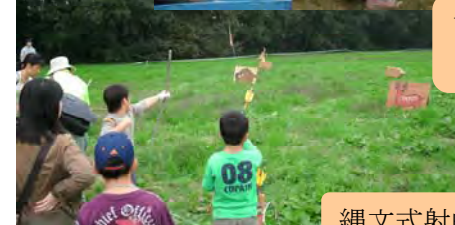
（勝坂遺跡活用実行委員会 稲葉）



新磯小学校児童
制作土器展示



古代技術を楽しむ会
（火おこし）



縄文式射的ゲーム（弓矢）

山梨県都留市 勝山城・谷村城・八朔祭

9月1日に台風の余波で時々小雨の降る中、北部班の活動として山梨県都留市の勝山城・谷村城・八朔祭（旧暦8月朔日に行われていた祭）を訪れました。

富士急行の谷村町駅に到着し、富士見坂を下り、桂川（相模川の上流）を渡って登り出し、勝山城の外堀・内堀・三の丸から、お城山頂上（571.4m）で、東照宮（写真）を参拝しました。眼下に谷村城（現在は市役所）を中心とした城下町を一望できましたが、雲で富士山が見えなく



東照宮

残念でした。

下りは、茶壺蔵跡から採茶使が運んだお茶壺道中のおさん沢沿いを

下り、勝山八幡神社と城南橋付近の断崖と、対岸の城下町都留市内でミュージアム都留（博物館）を見学しました。

ミュージアムの概要を紹介すると以下のとおりです。

- ・旧石器→縄文→弥生時代の遺構・遺物が豊富。
- ・郡内（現在の富士吉田市～上野原市）の中心地に谷村が選ばれた理由は、南北を山と川に挟まれ、敵の攻撃を防ぎやすい地形であったことや、平地が多く町としての発展が見込めたからである。
- ・天文元年～宝永元年（1532～1704）間に、領主は小山田氏（50年間）→鳥居氏（8年間）→浅野氏（8年間）→鳥居氏（29年間）→秋元氏（70年間）宝永元年迄は郡内（谷村）藩で、正徳3年（1713）から幕末まで、天領となり陣屋が置かれた。

- ・秋元氏は農業・生活用水として、現在活躍中の谷村大堰・家中川や城下町を整備した。

雨天により八朔祭の大名行列は取止めでしたが、宵祭の屋台の繰出しを見学することができました。

その後、龍石寺→水力発電元気クン1号→谷村城跡→谷村陣屋跡→松尾芭蕉が5ヶ月逗留した桃林軒→円通院→東漸寺→尊念寺→町屋資料館→長安寺も見学しました。（北部班 村上）

5期生登録者講習会同行記-村富神社編-

文化財調査・普及員の5期生登録講習会が9月3日より開催され、今日10月1日は現況調査です。

氷川神社と村富神社の2グループに分かれて秋晴の中、それぞれ目的地に向かいました。

相模原市の5つの新田、村富神社の歴史及び相模屋助右衛門と上矢部新田の関係等の説明。次に市指定有形民俗文化財である“獅子頭”の見学。この神社には30の石造物とその他、記念樹等もあります。“山の神の鳥居”の前では「鳥居にはどんな種類があるのか」等の質問も受けました。“見透かしの松”では伝説をも含めて話をした後、いよいよ本日の調査物である“地神塔”の前に来ました。調査票の作成です。図を書き、メジャーで測る人、読む人、記入する人と皆、真剣かつ和やかに作業は進みます。そのうちに、“地神塔”て何？、“相州高座郡”？、“講中”？、“なんだ

これは？”、“嘉永六丑天”、“西暦で言うと何年だ？”、色々な疑問も出て来ます。年表で調べながら調査票は完成です。



村富神社

神社横の“八王子道”の標柱の前では「昔からこの道はあったの？、当時は雑木林や原野で道はなかったのでは？」とここでも話つきません。来て見て知っているはずの村富神社にも沢山の研究材料があることを分かってもらえました。

これから熱心な受講生の皆さんと一緒に活動出来ることを楽しみに、本日の同行は終わりました。（東部班 大石）

80年ぶり! 「上溝シャンソン」復活

「上溝シャンソン」は昭和初期に地元で歌われていましたが、戦後はほとんど忘れられていました。今年初め、「上溝シャンソンを復活させて皆で歌って踊ろう、そして地域住民の相互交流を促がそう」と地元の田口孝平さんの呼びかけで「上溝シャンソンを復活する会」が結成され、行動を開始しました。

この歌の作詞は福島県二本松出身の歌人並木秋人で、歌詞は『上溝町郷土史』(上溝小学校)などに記録されており、一部の人に知られていました。しかし、曲を知る人はなく、音源探しが難航しましたが、幸いに郷土話



収録の様子

会の関係者が保管していたテープ(地元の鈴木雄次郎さん歌)が見つかり、これをもとに鳥羽山美和

さんの編曲、鈴木美智子さんの振付で盆踊り歌として復活しました。明るく、親しみやすく、元気よく、歌えて踊れる曲に仕上がったと思います。

集落の形成を助けた 大沼の講

江戸時代中期、新田開発が行われた大沼の開墾地に木曾(町田市)や海老名、津久井青野原など合計24の地域から入植がありました。

多方面からなる人々の心をつなげて良好な集落の形成に大いに貢献をしたと思われる大沼の講について調べてみました。

1. 大沼に存在した講

- ・現在も存続の講
念仏講、秋葉講、御嶽講、武相講
- ・昭和年代まで存続した講
稲荷講、双盤講、恵比寿講、愛宕講
- ・過去に存在した講
地神講、庚申講、富士講、巳待ち講、馬頭観音講

2. 講の様子

講の経験者から聞き取りました。

- ・講は家族単位で加入し家族で参加した。
- ・会場は主な家が順番に、また観音堂や神社の社務所、製糸工場などでも開かれた。

♪上溝シャンソン

(一番)

溝は上溝 町幅ア広い
春のお月さん ほんのり照れば
灯りつくつく ベープを鳴らし
人が花やら 桜やら
ヨイヨイ上溝 スチャラカヨイヨイ
ホンニ上溝 スチャラカホイ

11月25日に上溝公民館で、翌26日には上溝大鷲神社の三の酉の市でお披露目されました。

「上溝シャンソン」には上溝の風物が歌い込まれています。歌詞の一番には、当時珍しかった舗装道路(ベープ=pavement)に靴音が響き、商店が軒を連ねて賑わっていた上溝の様子が歌われています。当時は各地で盛んに盆踊り歌が作られた時代で、「東京音頭」もこの頃に作られています。また、シャンソンもこの頃にフランス映画とともに日本に入ってきたもので、当時としては少しハイカラな上溝をイメージして作詞家が題名に取り入れたものと思われる。

「上溝シャンソン」の復活には多くの方々にご協力をいただきました。また、地域の方々と気持ちを通い合わせることができて、この事業に関与できてよかったと思っています。

(西部班 嶋田)

- ・信仰儀礼が終わると必ず共同飲食し懇親した。これで皆んなが仲良くなっている。
- ・代参講(秋葉講)は籤で順番を決め代参。代参のあと3~4日かけて観光もした。
- ・稲荷講は講が終わっても雑談や将棋を指したりして朝まで帰らず「いなおり講」とも呼ばれていた・・・



念仏講

講の様々なエピソードは今でも語り継がれています。

講によって信頼関係が築かれ農作業、

どがまつ 土窯搗き、屋根葺き、冠婚葬祭などの相互扶助が行われるようになり、講が集落の一体感を生んで来た様子がよく分ります。

(東部班 太田)

「点の記」北端点と百米比較室

相模野基線が、土木学会選奨の土木遺産として認定され、平成22年12月11日、サニープレイス座間において盛大な催しが行われてもうすぐ1年となります。

市内の麻溝台にある基線の北端点は明治15年(1882)に出来、約130年もの間、地元の方々の並々ならぬ努力によって大切に守られてきました。この事も土木遺産選定の重要な要素でした。

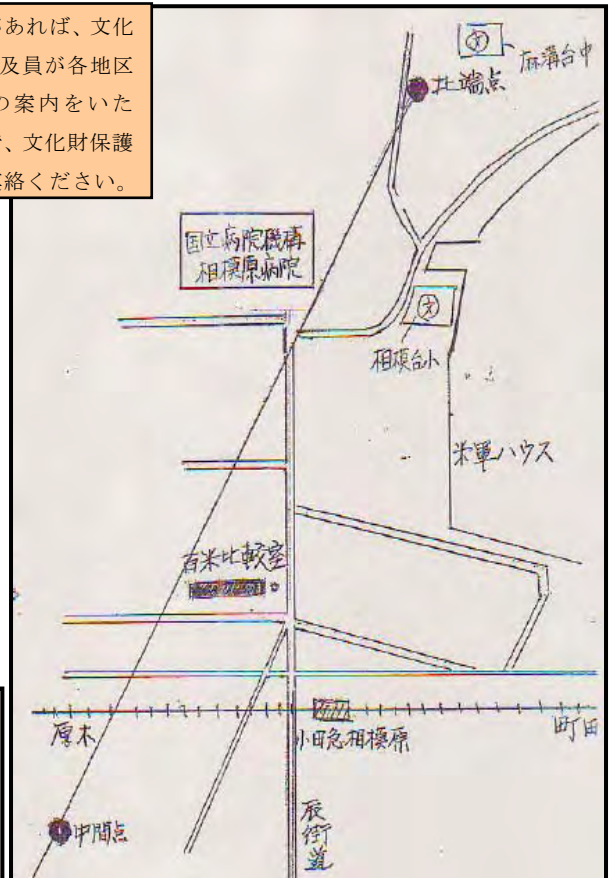
北端点の周辺は、江戸時代の御尊櫃街道の「下溝の一里塚」又は「二ツ塚」とも言われています。南部班の年2回の文化財パトロールも北端点を集合出発点とし、貴重な史跡として見守ってきました。

北端点と南端点の高低差は、24mあり、北端点から南端点に行く道は県道二ツ塚線又は辰街道(国病通り、サザンロード)といわれています。この中程に、明治35年、基線尺の比較検定のため「百米比較室」が造られました。明治15年の4m基線尺のビルガード式、明治43年からの25mインバール線状尺の使用により測量技術が進歩し、大正13年(1924)の第4回の測量の結果、明治43年より24.3cm基線が長くなっているのがわかりました。

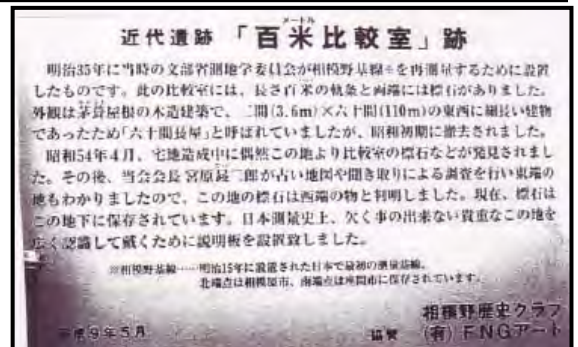
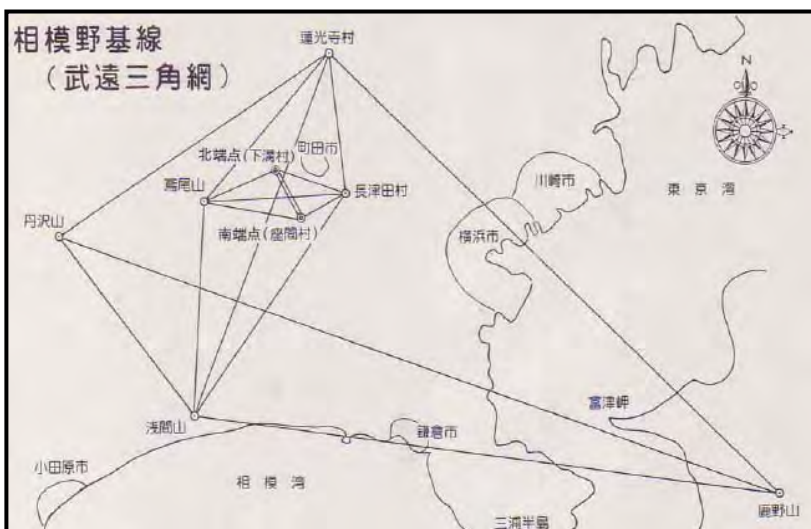
この差は関東大震災によるものか天棒の差なのかはわかりませんが、この結果、日本の地図が正確に出来るようになりました。

その後、昭和54年に相模台2丁目で百米比較室の標石の一部が発見され、市教育委員会の調査でその東端点であることがわかりました。この場所は「六十間長屋」と言っていたようですが、昭和の初めに取り壊されてしまいました。又、相模野基線の西の頂点厚木蔦尾山255m、東の頂点長津田高尾山100mの一等三角点の高台から見る相模の原の景色はすばらしいものです。
(南部班 阿久津)

*ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。



*座間中央ロータリークラブ 『相模野基線中間基点 (パンフレット)』より



*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371